再来年春の就活始動

3年次生向けの就職ガイダンスが9月下旬、生田・神田両キャンパスであり、再来年春の就職に向けての動きが始まった。

生田キャンパスのガイダンスは、席に座れない学生も出るほど大勢の参加者が詰め掛けた。就職課の職員が今年の就職活動状況を説明。経団連加盟の企業は選考開始が昨年より4カ月遅い8月に繰り下げられたが、就職情報調査会社によると、8月1日時点で64％の学生が内々定を得ていた。経団連非加盟企業では2月にエントリーシートを受け付けたり、面接を行ったりするなど、従来どおりに採用活動する企業も少なくなかった。

また繰り下げでかえって就職活動が長期化し、企業にも不評だったとして、経団連で再び採用開始時期を見直す動きもある。就職課では「どのくらいの修正になるのか、いつ発表されるか分からないので、しっかり準備を進めてください」と呼び掛け、現行スケジュールで説明会などが解禁になる来年3月の前には就職対策を一通り完成させなくてはならないとして、早めに取り組むよう重ねて訴えた。

▲　大勢の３年次生が詰め掛けた就職ガイダンス＝９月28日、生田キャンパス

▶　就職手帳を開く参加者＝９月29日、神田キャンパス

神田キャンパスでは、内定を得たばかりの4年次生が今年の就職活動を振り返った。自己分析のやり方や業界研究について語り、「内定を早く得ればいいわけではなく、入りたい会社かどうかで選んで」「就職課をとことん活用しよう」「知らない業界もたくさんあるので、初めから絞り込まないほうがいい」などとアドバイスした。

就職課から

後期授業が始まり約1カ月がたちました。4年次生は卒業に向けて、学業やサークル活動などに励んでいることと思います。

さて、就職課には連日、4年次生が相談に来ています。就職活動を継続して頑張っている人、自分のやりたい仕事を諦めないで探し続けている人、就職課は全力でバックアップしています。

10月28（水）、29（木）の両日、午後1時から、サテライトキャンパスで「学内企業説明会inサテライト」を実施します。企業の採用意欲はここ数年右肩上がりで、この2日間で40社以上が来学し会社説明を行います。専大生を採用したい企業ばかりが集まるので、例年このイベントから内定者が出ています。このチャンスをぜひ活用してください。

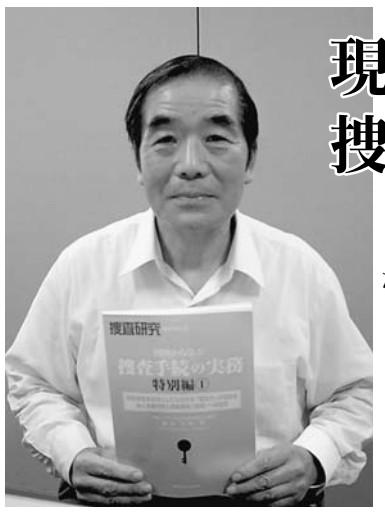
一方、3年次生の就職活動は早くも火蓋が切られました。10月からは外部講師を招いた講座が始まり、11月からは企業の人事担当者や卒業生を招いた「業界研究入門」もスタートします。就職支援プログラムへの参加は、就職活動の第一歩！

授業に支障が出ないようにしながら、できるだけ多く参加してください！

両キャンパスとも、参加した3年次生は真剣な表情で職員らの話を聞き、配られたばかりの就職手帳の就活ガイドや、就職課の支援プログラムのパンフレットなどを熱心に読み込んでいた。

現場の経験生かし 捜査専門誌に論文

◀　大学院・細谷さん



捜査専門誌に載った細谷芳明さん（院法修2）の論文が話題を呼んでいる。

論文は「強制採尿を前提としてなされる『留置き』の適否をめぐる裁判例と捜査実務（現場）への提言」で、月刊誌『捜査研究』臨時増刊号（判例から学ぶ捜査手続の実務　特別編①）として東京法令出版から出版された。

覚せい剤の使用の容疑が濃厚であるにもかかわらず採尿に応じない者に、強制採尿を前提としてなされる「留置き」についての適法性の判断基準を論じている。

細谷さんは栃木県警大田原警察署長、栃木県警察学校長などを務めた元警察官。定年退職後、法律の知識を深めたいと本学に入学。二部法学部総代で卒業し、大学院に進学した。

滝沢誠教授（刑事訴訟法）の指導のもと、違法収集証拠排除法則をテーマに研究に励んでいる。

警察官時代に、覚せい剤など薬物使用者の取り調べを行ってきた経験が論文の着眼点となった。「留置き」について2009年、東京高裁が初めて採用した、任意捜査（説得）段階と令状請求準備から執行までの段階とに二分して判断する「二分説（論）」を、これまでの判例の射程を踏まえつつ解説、捜査の指針として研究した。

読者からは実務上の難問の一つである「『留置き』問題が分かりやすく解説されている」などの声が寄せられた。細谷さんは「二分説（論）は覚せい剤使用事案に対し、捜査手続上明確な基準となる。その内容を捜査現場に向けて提言した。本書を大いに利用してほしい」と語った。

グッドデザイン賞

スポーツ研・佐藤所長が共同開発の携帯ケース

スポーツ研究所の佐藤雅幸所長（経済学部教授）が共同開発した携帯端末ケース「Palmo（パルモ）」＝写真＝が2015年度グッドデザイン賞を受賞した。

Palmoは米アップル社のスマートフォンiPhone（アイフォーン）シリーズに対応し、シリコン素材で数字の「8」のような形をしている。この交差部分に指を差し込むことで、端末が落下するのを防止。また、本体を握らずに指一本で端末を支えることが可能になり、片手で簡単に操作することができる。ECBB株式会社（東京都）が製造し、今年1月から発売している。

佐藤所長は開発にあたり、スマホ使用による指や背中などへのストレス試験を実施。Palmo装着によって、腱鞘炎や指への影響などを防ぐことができ、疲労も軽くなるとの結果を得た。グッドデザイン賞審査委員からは「スマホユーザーのストレスを軽減している」との評価を受けた。

佐藤所長は「今後も指の動きなどを調査し、改良に努めていく。これからもスポーツ科学の立場から健康や社会的な問題など、さまざまな問題にアタックしていきたい」と話している。

製品は10月30日から11月4日まで、東京ミッドタウンで開催の「グッドデザインエキシビション2015（G展）」で紹介される。

公開講座情報

図書館特別展「フランス革命を知ろう！2015―人権、社会保障、近代経営論そして、教育―」

本学が所蔵するフランス革命関連史料「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」を中心に展示。

▽期間＝10月17日（土）～24日（土）※18日（日）除く▽時間＝12時～17時（最終日10時～）▽会場＝図書館本館研修室（生田キャンパス9号館3階）▽展示点数＝ベルンシュタイン文庫所蔵の史料約40点と銅版画（複製）約30点※入場無料

問図書課☎044・911・1274

社会知性フォーラム―岩手国体がもたらすレガシー（遺産）―

▽日時＝10月24日（土）13時▽会場＝岩手県北上市日本現代詩歌文学館▽吉田清司法学部教授、渡辺英次商学部准教授の講演の後パネルディスカッション※入場無料

問専修大学北上高等学校事務局☎0197・63・2341　E-mail:s-forum@senshu-kitakami.ed.jp

社会知性開発研究センター／心理科学研究センターシンポジウム「融合的心理科学の創成：心の連続性を探る」

▽日時＝10月24日（土）11時▽会場＝神田キャンパス731教室▽研究報告（長田洋和人間科学部教授ほか）、ポスター発表、オスロ大学ブルーノ・ラエン教授による招待講演（英語通訳なし、日本語スライドあり）、パネルディスカッション（パネリスト：心理科学研究センター研究員、指定討論：長谷川寿一東京大学大学院総合文化研究科教授）

問社会知性開発研究センター☎044・911・1347　E-mail:socio@acc.senshu-u.ac.jp

社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センターシンポジウム「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」

川本芳昭・九州大学教授／田中史生・関東学院大学教授の講演と討論会。

▽日時＝11月7日（土）13時▽会場＝神田キャンパス302教室

問社会知性開発研究センター

大学院経済学研究科政策科学シンポジウム「日本経済とエコノミックリサーチ」

▽日時＝10月30日（金）14時30分▽会場＝神田キャンパス731教室▽基調講演＝嶋中雄二氏（三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱参与・景気循環研究所長）▽パネルディスカッション＝嶋中雄二氏／伊藤さゆり氏（㈱ニッセイ基礎研究所経済研究部上席研究員）／櫻井宏二郎経済学部教授／田中隆之同教授）▽コーディネーター・司会＝宮本光晴同教授※入場無料

問大学院事務課（生田）☎044・911・1271　E-mail:gkouza22@acc.senshu-u.ac.jp

大学院公開講座PART1・2

▽PART1＝「エコノミックリサーチで経済を斬る！」11月6日～27日の毎週金曜日全4回▽PART2＝「アベノミクス下の中小企業」12月4日～18日の毎週金曜日全3回▽時間＝18時30分▽会場＝神田キャンパス731教室※入場無料

問大学院事務課（神田）☎03・3265・6568

スポーツ研究所公開シンポジウム　レガシーシリーズ№8「オリンピック・パラリンピック一体のレガシー」

▽日時＝11月11日（水）15時▽会場＝生田キャンパス1022教室▽第1部・基調講演「障がい者スポーツの魅力と可能性―パラリンピックを通して―」高橋明氏（元パラリンピック車椅子バスケットボール全日本チーム総監督）／第2部・シンポジウム「オリンピック・パラリンピック一体を考える―スポーツを通じたインクルージョン―」（高橋明氏、河合純一氏〈パラリンピアン〉、李宇韻法学部准教授）※入場無料

問スポーツ研究所☎044・911・1032　E-mail:sports@isc.senshu-u.ac.jp

法学研究所　学生と市民のための公開講座「法律学と政治学の最前線（フロントライン）Ⅱ」

▽11月7日（土）「会社と社会―社会のなかの会社、会社からみる社会」大槻文俊法学部准教授／萬澤陽子同講師▽同14日（土）「市民と国民―その現代的意義を考える」広渡清吾同教授／深澤民司同教授▽12月12日（土）「立憲と政治―『憲法を作る』ということ」榎透同教授／菅原光同教授▽時間＝14時▽会場＝神田キャンパス205教室※入場無料・事前申し込み不要

問法学研究所☎03・3265・6888（毎週月・火・水）　E-mail:houken@isc.senshu-u.ac.jp

第159・160回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」

スティーブン・リム氏（経済学部海外客員教授、ニュージーランド・ワイカト大学）とマーク・ホイヤー氏（経営学部海外客員教授、米サスケハナ大学）が連続講演。5回シリーズ。

▽期間＝10月31日～12月5日の毎週土曜日（11月28日は除く）▽時間＝リム教授9時～10時30分／ホイヤー教授10時45分～12時15分▽会場＝国際交流会館・山田長満インターナショナルホール※入場無料

問国際交流事務課☎044・911・1250　E-mail:iaffairs@acc.senshu-u.ac.jp